

# シアトル別院時報

31巻9月号

2012 年度教化標語  
世の中安穩なれ



## ドイツより

### 新井俊一師



ドイツに来て3週間になりました。もっと長くいたような気がします。ドイツ語の勉強はボチボチで、同級の若い人たちよりも数段遅れています。新しい言語を学ぶということは、語彙、文法、聞く力、話す力、等々を総合的に強化しなければなりません。今貯金をしていて、後になると、それを活用できるのだ、と自分に言い聞かせています。70の手習い、年寄りの冷や水、等々冷やかしのことわざが思い起こされるこのごろであります。

8月11日と12日、列車でマールブルクへ行きました。ある高名なキリスト教神学者にお目にかかるためですが、その方とは5年前に龍谷大学で講師をしていた時に、講師控え室で何気なく話し始めたのがきっかけで、今まで友好を深めてきました。誰かを探しておられるようなので、英語で「どなたかを探しておられるのですか」と聞いたのがきっかけでした。それだけで、何となく気心があって、名刺を交換したのが始まりです。コミュニケーションは本当に大切です。

その方が神学者で、私が浄土真宗の学者の末席を汚すもの、であるので、話は様々な宗教上の問題に集中していきました。私たちは改まった学会やシンポジウムではなく、普段着のまま宗教間対話をしていたのです。本当に豊かな話し合いでした。次に私たちの対話の一つをご紹介します。

#### 「聖典の真実性について」

聖典の真実性、信憑性については、キリスト教でも長い間、重要な討論の命題でした。仏教でも、東南アジアの上座部仏教の方々が時々、中国や日本でおこなわれている大乘仏教は釈尊滅後大分たってから成立した仏典によっているのだから、本物の仏教ではない、と言う人がいます。確かに大乘仏典は古いものでも西暦前後、新しいものは西暦3、4世紀に成立したものだといわれています。また日本ではほとんど漢訳仏典に

#### 9月の予定

- 2日 10時 家族法要  
10時45分 日本語プログラム
- 3日 事務所休み
- 9日 10時 家族法要・ダーマスクール初日  
10時45分 日本語プログラム
- 16日 10時 家族法要・子供法要  
10時45分 日本語プログラム
- 23日 10時 秋のお彼岸法要  
10時45分 日本語プログラム
- 29日 9時半-3時半 女性のセミナー
- 30日 10時 恵信尼様/覚信尼様 顕彰法要  
パティ-大下師( sacrament)  
10時45分 日本語法要  
谷口昌陽師(サウス・アラメダ)
- 6日 1時半 日系マナー法要
- 20日 1時半 日系マナー法要
- 25日 10時半 敬老ホーム法要

よって教学をたてていますが、それらも元はサンスクリットでかかれたものです。しかしそれをいうのなら、上座部仏教の抛るパーリ聖典も釈尊の言葉をそのまま伝えているかどうかわかりません。第一パーリ語が釈尊の話された言葉とは違っているからです。

聖典の真実性、信憑性は、言語学や解釈学で解決するものではありません。最終的には聖典を読む人の宗教的体験から生まれるものでなければなりません。親鸞や法然は、大経が自分たちに開示してくれた内容をよく考えて、それが釈尊のお心から起こったものであることだと確信を持ったのです。歎異抄第二章に「親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまゐらすべしと、好き人のおほせをかぶりて、信ずるほかに別の仔細なきなり」とありますが、これは親鸞聖人が法然上人の言葉を盲目的に信じた、というわけではありません。親鸞聖人は法然上人の導きによって阿弥陀如来の本願に出会いました。いったん本願に出会うと、逆に法然上人の教えの信憑性が確立します。そうすると大経の信憑性、真実性も疑いのないものになります。私たちも親鸞聖人の教えに導かれて本願に出会い、今度は私たち一人ひとりが、大経の真実性、親鸞聖人の教えの真実性を確かめることになるのです。

先生の略歴：相愛大学名誉教授、文学博士(ハワイ大学)、浄土真宗本願寺派教師。



### 会長の挨拶

森久保ゆきお

日本語で「おかえり」という言葉があります。家族が家に帰って来た時に迎える言葉です。それは「カジュアル」に使いますがその人がいかに家族にとって大事にされ家族に所属し一員であることを再確認します。

その言葉を毎年9月にダーマ・スクールの生徒たちが別院に戻って来る時に思います。自分たちの希望か、親の希望か、ダーマ・スクールの生徒は友達に会いに、法要に参加に、クラスに出席のために、戻ってきます。お寺のダーマ・スクール父兄たち、理事、献身的な教育長と先生たちは子供たちへの浄土真宗教育を教えることを再認識し、人生の困難にあった時いかにそれと向き合うかを説き、育て、喜びを運びます。これは考えようによっては別院のなかでも一番大切なことかもしれません。

この言葉はまたダーマ・スクールの生徒でない方にもあてはまります。別院に戻ってくると想像してください、というのも別院にとって貴方は大切に、別院一員であります。多くの人たちの献身的な奉仕で別院を貴方のホームにしています。その人たちは、もちろん、ミニスターとそのアシスタントですー輪番ドン・カストロ、ジム・ワリック先生、MA ジョー・シュワブと後藤アイリーン。先生たちは勉強された仏法を献身的に分かち合われます。

そして貴方や私のような門徒の人たち、私達の法要、特に日本語法要は宗教部とその部長、星野アランの尽きないハード・ワークと献身のお陰なしには出来ないことです。宗教部はミニスターと一緒に私たちに適しているプログラムを開発しようと努力しています。

また、アランは法話を撮影し日本語法要に貢献し、レコーディングはウェブサイトにも収められ自由に見られるようになっています。

私達の施設が十分に機能しているように、施設コミティーはお寺、ジム、敷地を常時点検し、掃除し、ペンキを塗り、修理しています。今日、そのメンバーは本名サイレス、久保田ケンの「ミスター・フィックスイット」です。この二人は経験豊かな田妻エルマー、本名マス、長谷川ジムなど過去に奉仕されたよき伝統を引き継いでいます。

ほかに、メンバーのためにこの時報が毎月出来上がります。後藤アイリーンと和田真知子、各団体の代表者のおかげです、毎月、記事を書き、編集、翻訳、そしてこの出版物ができ、適時にお宅に送ることが出来ます。

この多数の方々によって用意される別院のなかの数人が貴方の帰りを歓迎します、いつでも、どんな時でも。これは考えてみる一理があります、感謝のためにも。シアトル別院を代表し、ミニスター、メンバーを含み、貴方に一言、おかえり！ 合掌



## オライオン・ハウス食事奉仕

シアトル市のホームレス青年たちのために、個人またはグループにて計画をたて、食事を用意するオライオン・ハウス・センター・プロジェクトは毎月第3金曜日に行われます。別院の各団体や家族が過去3年に亘り奉仕しており感謝されております。これは私たちにとっても価値あるプロジェクトです。皆さんの支援を願っています。詳細は寺本マイクか別院事務所まで知らせてください。

また食事材料の資金を得るために今年も「エンターテイメント2013」を販売しています。QFC, Top Foods, American Airlines, Bartell Drugs, 映画, レストラン, お店など皆様の身近な所にも使えます。ブックは\$30で9月9日より法要前後にお求め下さい。ご家族、ご友人、ご同僚などにもお尋ね下さい。

**女性セミナー 9月29日 シアトル別院 9時半—3時半 申し込み用紙は英語面に**  
「キリスト教の国にて仏教徒として生きる」と題し女性セミナーがシアトル別院で開かれます。  
谷口昌陽先生による日本語セッションもあります。これはSBBWAの恵信尼様/覚信尼様 顕彰法要に基づいた企画です。シアトル別院での初めての女性セミナーです、ご家族、ご友人お誘い合わせぜひご出席下さい。  
シアトル別院主催 SBBWA 後援  
パネル・ゲスト： シャーロン・スー博士（シアトル大学）  
谷口昌陽師・博士（南アラメダ仏教会）  
パティ・大下師（サクラメント仏教会）

## 藤見荘で理事募集

藤見荘ではお寺のメンバーで以下の職業経験があり、理事として運営委員会に参加の興味のある方を募っています。  
メンテナンス、ビルディング・コンストラクション、ビジネス、ファイナンス・マネージメント。詳細は坂本ケリーか他の理事まで。

## 会員部より

シアトル別院会員の年会費は70才以上は\$250（\$500ご夫妻）、70才以下は\$300（\$600ご夫妻）です。これは別院の維持に対しての最低額になります。別院会員入会ご希望の方は事務所までご連絡下さい。会費をお支払いの方と新しく会員に参加された方々のお名前が英語面にあります。  
2012年度の会費締め切りは9月末日です。まだお支払いのない方はお納め下さい。月払いの方も残額をお納め下さい。

# 婦人会便り

## 会長のメッセージ

## 馬場ジャネット

**お盆踊り**：65名の婦人会会員が龍お盆踊りお祭りの準備に参加して下さいました。商品、バラ寿司、そして焼きそばブースはとても多忙で、又よく売れました。婦人会会員でもある踊りの先生方は一週間半前から踊りを教えられ、お盆踊りの両日も踊り子達を指導されました。もう、踊りも踊らない、そしてブースでもお手伝いをしない婦人方は、売品の縫い物、そして水引細工作りなどに協力して下さいました。皆様本当に有難うございました。深く感謝申し上げます。







